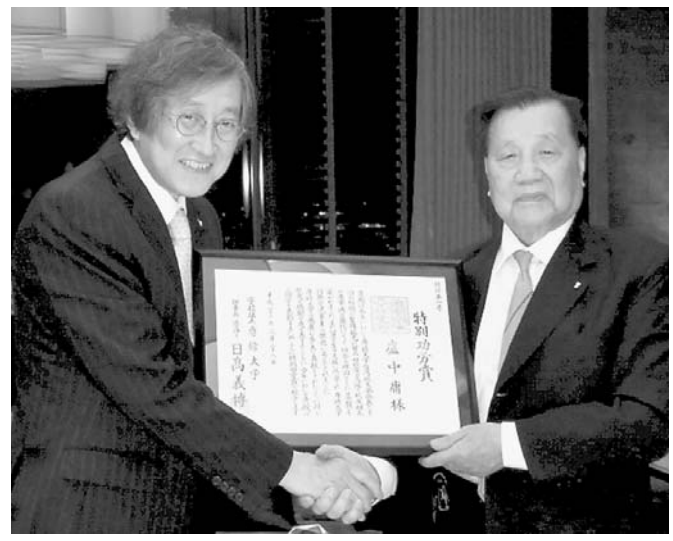
台湾校友会　発展に寄与　国際交流

盧中庸さんに――特別功労賞第1号

長年、台湾校友会（校友会台湾支部＝会員228人）の発展、国際交流事業の推進に尽力してこられた盧中庸元会長（昭23専政、現・校友会顧問）に対し、第1号の専修大学特別功労賞が授与された。

3月28日、台北市で日高義博理事長が盧さんに賞状と記念品を贈り、その労をねぎらった。盧さんの子息で前会長の盧杰輝さん（昭63商）、現会長の陳士奇さん（平8経営）、李健華さん（昭61院経営修）、何東志さん（平7院経営修）ら台湾校友会の主要メンバーも参加した。

盧さんは台湾南部の台南県東山市（当時）生まれ。台湾の小学校を卒業して太平洋戦争ぼっ発前年の1940年に来日。明治大付属中から専大専門部政経科に入学した。戦後の48年に卒業し帰国。農場経営から53年、食品の貿易会社経営に転じた。台湾の生野菜、果物を日本向けに輸出するなど事業を拡大、日台を行き来してきた。



▶日高理事長から賞状を受け取る盧中庸さん（右）

「今後も専大のために」

現在は一線を退き杰輝さんが跡を継いでいるが、「北海道から沖縄まで日本全国に友人がいる」のが自慢だ。

専大との関係も大切にし、台湾校友会の拡充に寄与してきたほか、本学の創立100年時には多額の寄付金とともに金屏風を寄贈してくださった。この屏風は、神田1号館15階ホールに置かれ、今もさまざまな式典を盛り上げている。

また2008年、本学と中山大学（高雄市）との国際交流協定締結の際にも力を尽くした。春に開催される学生部主催の台湾セミナーでは毎回、「専大の学生との交流を大切に」と、台湾校友会が中心になって参加学生たちとの歓談の場を設けている＝6面参照。

今年88歳を迎える盧さんは「足腰が弱くなり日本に行くことは少なくなったが、これからも専大のためになることをしていきたい。頑張りますよ」と元気いっぱいだ。

専大校友を訪ねて

日本スケート連盟専属トレーナー　加藤修さん（昭46商）

「いつもどおりの演技ができるように」。フィギュア選手たちを心と体の両面から支えて40年ほどになる。日本男子に初の金メダルをもたらした羽生結弦選手、ショートプログラムでの失敗を乗り越え、フリーではトリプルアクセルをはじめ全6種の3回転ジャンプを成功させた浅田真央選手。数々の感動をもたらしたソチ五輪、その舞台ソデで選手の演技をじっと見守った。五輪との関わりは1976年のインスブルック大会以来。

大会では選手より先に会場に入り一回り歩く。ウオーミングアップや本番前の待機場所、メディカルルームやトイレの場所を確認。「いつもと違ったことが起きてもまごつかせないように」と選手一人ひとりの性格や好み、体調に合わせ、試合に備える「一番の場所」を探す。現在のトップ選手をみな小学生時代から知っているのが大きな強み。

フィギュア選手の心と体を支える

持ち歩くリュックサックはずっしり重い。中にはスケート靴のためのドライバー、ネジ、砥石、ひも。さらに安全ピン、体温計、静電気防止スプレー、数種の爪切り、8色の糸を揃えた裁縫道具…。「全部揃えておかないと」。こんな気配りで歴代の選手から厚い信頼が寄せられている。

スケートで総合優勝を狙えるチームに――と誕生した専大フィギュアスケート部の1期生だ。

中学時代から器械体操をやっていたが、故障で断念。スケートは生地である、東京・新宿にあるリンクで本学に入学する数カ月前に始めた。現在もコーチとして活躍する都築章一郎さんや佐藤信夫さんに師事し、日本氷上学生競技選手権などで活躍した。

卒業後いったんは就職したが、「スポーツに関わる仕事を」と模索。野球のトレーナーの存在を新聞で知り専門学校で学び、鍼灸師資格も取得し現在の道に入った。

マッサージ、トレーニング、リハビリというトレーナーの要素に加え、経験という武器を持つが、ソチを機に後進に道を譲る。取材の日も大きなリュック姿で、「長年の癖は抜けません」と笑った。

専修人の新しい本

<校友>

ダンスシューズで雪のシベリアへ　黒沢歩翻訳

ラトビア語の通訳・翻訳の第一人者、黒沢歩さん（平3文）訳の『ダンスシューズで雪のシベリアへ』が出版された。

バルト三国の一つラトビアは、1918年に共和国として誕生したが旧ソ連、ドイツなどに支配され続け、自国の文化を封じ込められてきた苦汁の歴史を持っている。

著者は旧ソ連下のシベリアに生まれ、その後、人民戦線のメンバーとして91年のラトビア独立を導いた一人であり、現在、欧州議会議員のサンドラ・カルニエテさん。独立後入手できるようになった公文書や家族の日記、シベリア体験者の声をもとに、大量流刑の犠牲となった両親と祖父母の足跡を追体験している。

「日本にはシベリア抑留の体験者がいる。ラトビア人とシベリアの苦しみを共有している日本人にこそ、読んでもらいたい」とカルニエテさん本人から邦訳の依頼を受けた黒沢さんが、10年がかりで完成にこぎつけた。

（新評論・本体3500円＋税）

校友会相模原支部　桜まつりで母校PR

校友会相模原支部（渋谷隆宏支部長＝昭33商経）の会員が4月5、6両日に開催された「相模原市民桜まつり」に参加し、母校のPRに一役買った。

今年で6回目の参加となる今回は、税理・不動産・司法などに関する「何でも相談室」と、焼き鳥や校友会グッズなどを販売する模擬店を出店。2日間延べ36人の会員が参加し、市民と交流を深めながらイベントを盛り上げ、地域社会に貢献した。また、10人の入会希望者が集まるなど、会員の拡大にもつながった。

イベント終了後には、相模原市の「ア・ドマニー」で懇親慰労会を開催。会員に加え、模擬店に協力した企業の方も参加し、親睦を深めた。

▲　専修大学ののぼりを立てて

現代用語の豆知識――ハラスメント

日本では1980年代末頃からセクシュアル・ハラスメントの問題が一般に知られるようになり、昨今ではいろいろな種類のハラスメントが認識されるようになりました。例えば2013年版『現代用語の基礎知識』に掲載されたものだけでも、上役による部下へのパワー・ハラスメント、大学や研究機関でのアカデミック・ハラスメント、性別を理由になされるジェンダー・ハラスメント、老人いじめなどのシルバー・ハラスメント、年齢による差別であるエイジング・ハラスメント（「おばさん」「おじん」といった呼び方も該当）があります。これ以外にも、モラル・ハラスメント（精神的暴力）、アルコール・ハラスメント（一気飲みなど飲酒の強要）など、ハラスメント関連の言葉は多岐にわたります。

これらの多くは大学でも起こりえます。「キャンパス・ハラスメント対策室」はハラスメントの防止と対応をつかさどっていますので、なんらかのハラスメントで困っている方は一人で悩まずに対策室の相談窓口を活用してください。

さて、このように多々あるハラスメント用語ですが、このうちセクシュアル・ハラスメントとモラル・ハラスメント以外は和製英語です。英語のharassは「しつこく、継続的に、繰り返し苦しめる」という意味です。その語源であるフランス語では、例えば「ゲリラ戦」のことを小規模な攻撃を繰り返すことで打撃を与えるから「ハラスメント戦争」（guerre de harcèlement）と言います。「差別」や「いじめ」では十分表せないニュアンスを「ハラスメント」の語は持っているのですね。

ちなみに、ハラスメントは悪意やたくらみによってなされるとは限らず、むしろ加害者に悪気はなく無意識のうちになされることも多いのです。ハラに一物なくてもハラスメントになりえますから、くれぐれもご注意を。

（キャンパス・ハラスメント対策室員　飯沼健子）

Stop Campus Harassment
ハラスメントのないキャンパスへ

校友会定時総会　7月12日

卒業生が一堂に会し、絆を深める「校友会定時総会」が開催される。第1部の総会に続き、第2部ではアトラクションや福引抽選会が行われる。校友会では多くの参加を呼び掛けている。

▽日時＝7月12日（土）12時開会▽場所＝千代田区「ホテルグランドパレス　2階ダイヤモンドルーム」（東京メトロ東西線九段下駅徒歩1分）

※詳細はホームページでご確認ください。

問校友会事務局☎03・3265・7579

校友会からのお知らせ

校友会代議員会

▽日時＝6月14日（土）15時～▽神田キャンパス303教室

〈岐阜県連合支部ゴルフコンペ〉

▽6月7日（土）▽土岐ICから車5分「レイクグリーンゴルフ倶楽部」

問桑原俊朗氏☎090・1783・2235

〈岐阜県連合支部総会〉

▽6月8日（日）10時30分開会▽JR岐阜駅から車5分「ホテルグランヴェール岐山」問野口晃男氏☎090・2614・0430

〈兵庫支部総会〉

▽6月15日（日）16時開会▽JR神戸駅から徒歩3分「湊川神社楠公会館」問武田克之氏☎078・652・3433

〈相模原支部総会〉

▽6月21日（土）18時開会▽小田急線相模大野駅舎上「小田急ホテルセンチュリー相模大野」

問渋谷隆宏氏☎042・744・4865